

# 社会福祉法人しゅらの郷福祉会

## 2020年度（令和2年度）事業報告

新型コロナウイルスの影響は経営に大きく響き、前年に対して収入が2000万円ほど下がっています。しかし、各事業の努力と各補助金・助成金のおかげで資金収支・事業活動収支とも黒字で決算を迎えることができました。新型コロナウイルスの影響は2020年度で終わったわけではなく、各補助金・助成金も2021年度はどれだけあるかは分かりません。より一層の経営努力が必要であると考えています。

### 法人本部

法人事業の安定的運営と効率的・効果的な推進を図るため、本部を中心として各事業間を調整し、安定した法人運営ならびに経営基盤の強化に努めました。

#### （1）理事会・評議員会の開催

①理事会 4回開催

②評議員会 2回開催

※議事事項は事業報告明細書に記載

#### （2）経営委員会の開催

法人運営の円滑な推進を図るため、毎月1回の経営委員会を開催し、経営状況の報告と検討、情報伝達、事業所間の調整、法人全体の課題の検討などを行いました。

※開催日

4月17日（金）	5月15日（金）	6月19日（金）
7月17日（金）	8月21日（金）	9月18日（金）
10月16日（金）	11月20日（金）	12月18日（金）
1月22日（金）	2月19日（木）	3月19日（金）

#### （3）人材育成

新型コロナ禍での三密を避けるため、集まった研修会を行わず、各自がビデオ配信を見る形式で行いました。

実施日時 10月～12月

実施場所 各事業所（ビデオ学習、レポート作成）

研修内容 成年後見制度について

（裁判所配信：わかりやすい成年後見制度の手続）

# 多機能型事業所 あゆみ

○生活介護事業（2021年3月末 定員30名 利用者数27名）

○就労継続支援事業B型（2021年3月末 定員20名 利用者数21名）

## I 事業内容

### （1）新型コロナウイルスへの対応

2020年度は新型コロナウイルスへの対応により、例年とは様々な面で異なりました。基本的な感染予防対策や三密とならないような環境作りを行い、その上で国や大阪府の要請に伴った対応を行ってまいりました。

また、行事関係はほとんど行うことができず、外出についても公園や人の少ない場所への外出が主となり、環境の急激な変化で利用者の精神的ケアに重点を置いて代わりとなるようなあゆみ内でできるような取り組みを行ってきました。

### （2）支援体制について

現在4班体制を取っています。1階は主に生活介護事業（さくら班・にじいろ班）、2階は主に就労継続支援事業B型（もみじ班・つばさ班）で活動を行っています。

午前中は軽作業を中心に行っていますが、午後からは班により作業内容が異なっています。

各班の具体的な活動内容については以下の通りです

- ・つばさ班：軽作業、創作活動、リサイクル作業、授産製品製作、余暇活動、外出
- ・もみじ班：軽作業、創作活動、余暇活動、外出
- ・さくら班：軽作業、リサイクル作業、創作活動、機能訓練、余暇活動、外出
- ・にじいろ班：軽作業、身体活動、創作活動、機能訓練、余暇活動、外出

### （3）宿泊活動、遠足

新型コロナウイルスの影響により、宿泊活動、遠足については実施することができませんでした。

### （4）生産活動について

新型コロナウイルスの影響により、毎月1回施設連絡会で行っていた市役所バザーや藤井寺観音・道明寺天満宮でのバザーについても中止になり、授産製品の販売が行えず収入は大きく落ち込みました。

しかし、その分内職軽作業に取り組む時間が増え、収入は増加しました。今後は授産製品と内職軽作業の両方で安定的な収入を確保し、工賃水準を上げるこ

とを目標に取り組んでいきます。

## Ⅱ 具体的支援内容

### (1) 生活支援

利用者の QOL を低下させることなく、維持・向上していけるように努めました。特に生活介護の利用者については個別的なニーズや障がい特性に応じた身体機能訓練・余暇支援等を行いました。

### (2) 作業支援

就労継続 B 型を中心に安定的な収入の確保をめざし、工賃の向上に繋がるものとして内職軽作業、授産製品の製作販売、アルミ缶リサイクル等の個別の能力等に応じた作業を提供しました。利用者一人ひとりが落ち着いて作業に取り組めるように支援しました。

作業に関しては

#### ①軽作業

作業（内職）の安定的な受け入れを確保し、途切れることなく作業に取り組める体制を整えました。内職業者や作業量についても適時見直しを行い、安定的な収入を得ることができました。また、随時作業内容の確認や見直しを行い、全員が安定的に様々な作業内容に取り組めるように努めました。

#### ②授産製品の製作・販売

主につばさ班で授産製品の製作を行いました。しかし、新型コロナウイルスの影響によりバザーに参加することができなかつたために販売先が確保できず、授産製品の製作はあまり行うことができませんでした。

#### ③アルミ缶リサイクル

毎週水曜日に協力いただいている方の家へ訪問してアルミ缶を回収し、リサイクルを行いました。また、毎月第 1・3 木曜日には津堂地区の協力を得てアルミ缶回収を行い、リサイクルを行いました。

### (3) 余暇（行事）活動

例年行っていた月 1 回程度の外出やバーベキュー、あゆみ祭、もちつき、等のイベントは新型コロナウイルスの影響により、中止となりました。

感染対策を取ったうえで室内での運動や散歩、ドライブ等を中心に余暇活動を実施しました。

### (4) 工賃

新型コロナウイルスの影響によりバザーへの参加が困難となり、授産製品の販売はほとんど行うことができませんでした。

しかし、授産製品製作に費やしていた時間を内職軽作業に取り組むことにより、安定的な収入を確保することができました。

(5) 就労支援

就労を希望される方はおられませんでしたが、必要に応じて就労に関する相談やハローワークへの付き添い、その他就労支援を行えるような環境を整えておりました。

(6) 食事の提供

昼食については、刻み食、一口サイズ食、一口おにぎり食、普通食等、個々の利用者の状況に応じて提供しました。

(7) 送迎

車両による個別送迎を実施。コース・時間等の希望に可能な限り応じ、利用者が安定的にあゆみに通所していただけるようにしました。また、送迎範囲についても、可能な限り要望に応じて対応してきました。

# しゅらの郷福社会 鈴藤

## (1) 実施事業

共同生活援助・短期入所

## (2) 事業概要

平成 26 年 10 月 1 日から共同生活援助事業を、11 月より短期入所事業の運営を行なってきました。共同生活援助利用者 10 名より運営開始し、個別支援計画を作成し、それに基づき利用者、利用者家族が望む生活ができるようなサービス提供を心がけています。

現在支援を行なっている支援員の課題として、利用者の ADL(日常生活動作)の低下防止、自立に向けての支援等、また医療的ケアの必要な利用者が多く、通院支援また日常の医療支援の問題、支援の質の向上が課題となっています。

## (3) 利用者状況

令和 2 年度は年間を通して、共同生活援助入居者(定員 10 名)がすべて満室の状態でした。短期入所の利用者は令和元年度に比較して、若干減少状況でした。短期入所の経験を経て、グループホーム入所や自立した生活へと卒業される方がおられました。また新型コロナの影響で、利用を自粛される方も多くおられました。

### ① 共同生活援助 定員 10 名 在籍者数 10 名

鈴藤 入居利用者支援区分(程度区分)(令和 3 年 3 月 31 日現在)

	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	計
男性	2 名	2 名	1 名	1 名	1 名		7 名
女性	2 名			1 名			3 名
計	4 名	2 名	1 名	2 名	1 名		10 名

(平均支援区分 区分 4.6)

共同生活援助の入居者は、年間を通じて 10 室満室でした。

現在入居者の平均支援区分は、4.6 となっています。

昨年度の区分 2 の入居者が、1 名区分 3 に変更になっています。

区分 4 以上の比率が、70%となっています。

② 短期入所 定員 3名

鈴藤 短期入所 月毎の延べ利用人数（令和2年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ人数	48人	59人	66人	73人	66人	62人	54人	49人	51人	48人	53人	51人	680人

鈴藤 短期入所 （令和2年度）

令和元年度短期入所延べ人数 680人

（4）支援内容

①健康管理

- ・ 歯科医師による往診治療（新美歯科）月1回
- ・ インフルエンザ予防接種（任意）
- ・ 毎朝、バイタルチェック（検温・血圧測定・体重測定）
- ・ 必要な利用者に対しての食事量・水分量・排尿・排便などのチェックによる、疾病の早期発見・早期治療
- ・ 体調不良時の通院支援
- ・ 定期通院の必要な利用者の定期通院支援
- ・ 医療的ケアの必要な利用者の介助（ストーマ管理等）
- ・ 医療的に必要な利用者の特別食の提供
- ・ 緊急時の病院搬送

②食事提供

- ・ 利用者の実態に合わせて、刻み食、クローン病食など個別対応
- ・ カロリー調整を考えた食事の提供
- ・ 必要な利用者に対しての自助具の使用
- ・ 服薬管理は、職員が行い、飲み忘れ誤飲がないように見守りと支援を実施

③生活援助

- ・ 衣類の着脱や食事・入浴などその都度、声掛けや支援を行ない、必要な援助を個別に実施
- ・ 帰宅後や、休日の過ごし方などを利用者や保護者から聞き取り、その個人に合わせた支援を実施
- ・ 入院中の利用者に対して、面会や入院援助などの実施

④行事、余暇活動

- ・ 毎月のお誕生日会、クリスマス会、節分、七夕等の季節の行事の開催
- ・ ステーキパーティの開催は中止しました。
- ・ 遠足については、新型コロナにより中止しました。
- ・ 消防避難訓練

#### ⑤短期入所

- 家庭での生活が、一時的に困難になった場合に保護し、生活上必要な支援を実施
- 利用者の自立体験や保護者と離れる経験としての活用の場の提供

#### (5) 職員研修・人材育成

- 個別ケース会議、職員会議、スタッフ会議・全体研修をおこないました
- 毎月の職員会議において、個別のケース会議を実施して、各利用者の個別支援の検討をおこなうと共に虐待、支援方法の研修を行いました
- 利用者の障がい特性の理解などについて、図書などを使用し、各自研修を行ないました

(新型コロナウイルス感染症対策) について、以下の対策を行いました。

- \* 手指消毒用のアルコール消毒液を出入口 2 か所と共用スペース 2 か所、計 4 か所に設置。  
施設に入るときは、必ず消毒をして、入っていただく。
- \* 共用部分の消毒。
- \* 毎日の体温測定の徹底。
- \* マスク着用の徹底。
- \* 手洗いの徹底。
- \* 常時換気に心がけ、窓を少し開けている。
- \* 蜜を避けるための、食事時の配慮と卓上パーティションの活用。
- \* 発熱者の支援において、防護服、ゴーグル、キャップ等の利用。

# ヘルパーステーション ウィンドミル

## ◎事業内容

藤井寺市・羽曳野市・松原市を通常の実施地域として次のサービスを提供しました。

### (1) 居宅介護・重度訪問介護

ご利用者がその能力に応じ、居宅において自立した日常生活または社会生活を営む事が出来るようご利用者の身体その他状況等に応じて、必要な援助を適切かつ効果的に行いました。

### (2) 移動支援事業

ご利用者が社会生活上必要不可欠な外出及び余暇活動など、社会参加のための外出が円滑にできるよう支援を行いました。

## ◎事業報告

春・冬2回の緊急事態宣言もあり、新型コロナウイルスの影響で外出を控えるご利用者も多く、移動支援の依頼が少なくなりました。そのため稼働状況は前年より低下しています。

### (1) 居宅介護・重度訪問介護

	年間支援回数	前年比	年間支援時間	前年比
2018年度	118		135	
2019年度	161	136.4%	167	123.7%
2020年度	157	97.5%	177	106.1%

### (2) 移動支援事業

	年間支援回数	前年比	年間支援時間	前年比
2018年度	1437		6940	
2019年度	1256	87.4%	6300	90.8%
2020年度	1152	91.7%	5786	91.8%

### (3) ヘルパー会議

資質・知識の向上とご利用者の情報共有等のため、定期的にヘルパー会議を開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で1回しか開催できませんでした。開催できなかった月は情報や連絡事項等をまとめた書類を各ヘルパーに送付しました。

※ヘルパー会議開催日

5月26日(火)



## 相談支援センター ぴんぽん

相談支援センターぴんぽんでは、障害者・児の自立生活を支えるため、課題解決にむけての総合的支援を軸に、福祉サービスを受給するための「サービス等利用計画」の作成に代表される「指定特定相談支援」・「指定障害児相談支援」を行いました。それにより開始されたサービスが、現在も個別の事例にあったサービス内容であるか、課題は残されていないか、定期的な訪問を行い、サービスを再構成するなどの「モニタリング」を行いました。

業務の大半を占める藤井寺市委託の「基本相談支援」として、障害者児・家族・関係機関からの様々な福祉・社会サービスに関する利用相談や、日常生活相談、就労相談、不安や情緒安定の対応や助言、虐待や自傷・他傷・窃盗・ドラッグなどの触法の対応。また行政・教育・就労・医療等の関係機関などと連携することにより、安心した地域生活を支える支援を行いました。

令和 2 年度の大きな動向は、なによりも新型コロナウイルス関連の、感染・発症・関係機関の閉鎖や機能麻痺などの相談・対応に追われました。また施設入所から地域生活に至るまでの移行支援。グループホーム入居や施設入所等、自立生活への支援。それらに付随する、就労や日中活動の支援。特に困難な事例では、入居後の障害重度化により、グループホーム対応継続が困難となり、グループホームからグループホーム、グループホームから施設入所への移行支援が多くみられました。

### 計画相談件数

	男性	女性	合計
障害者	40	25	65
障害児	0	1	1
計	40	26	66

### 障害別相談支援利用者数

	実人員	身体 障害	重症 心身障害	知的 障害	精神 障害	発達 障害	高次脳 機能障害	その他
障害者	442	9	57	250	106	2	5	13
障害児	30	0	0	13	9	7	1	0
計	472	9	57	263	115	9	2	13

### 支援内容

福祉サービスの利用等に関する支援	664
障害や病状の理解に関する支援	329
健康・医療に関する支援	238
不安の解消・情緒安定に関する支援	147
保育・教育に関する支援	4
家族関係・人間関係に関する支援	147
家計・経済に関する支援	42
生活技術に関する支援	94
就労に関する支援	62
社会参加・余暇活動に関する支援	119
権利擁護に関する支援	15
その他	3
計	1932

### 相談区分

訪問	171
来所相談	45
同行	22
電話相談	276
電子メール	3
個別支援会議	57
関係機関	362
その他	8
合計	944

## 支援センターしゅらの郷

発達障がいの特化した特色を活かし、障がい児ならびに障がい者が身近な地域で療育指導および相談等が受けられる療育体制の充実を図るため、支援を行う通所支援事業所、保育所、幼稚園、学校等の職員等を対象として、来談・訪問等により、療育・相談にかかる助言・指導・研修を行い、療育等の実施機関の重層的な連携を図り、地域社会においての相談研修を行い、地域社会と支援を行う各施設をつなぐ役割を担うとともに、幼児期からの各発達段階における切れ目のない支援を目指し下記の事業を実施しました。

### (1) 療育支援事業

#### ①「ペアレント・トレーニング」の実施

前期 11名・後期 10名

#### ②地域以外からの療育相談 13件

#### ③地域以外からの発達検査の実施 1件（発達検査フィードバック 1件）

WAIS-IV 1件

### (2) 機関支援

幼稚園・小学校・中学校または事業所に対する訪問および発達検査の実施、来所や電話にて指導及び助言による機関支援を行いました。

#### ①機関支援 113件

・療育相談 12件

・発達検査実施 77件（発達検査フィードバック 81件）

・保育園、小学校、中学校訪問相談・来訪相談 16件（ケース会議 2件）

・巡回 4件

#### ②発達検査の実施

・学校からの依頼 WISC-IV 77件

KABC-II 1件・WPPSI-III 1件・SM社会能力検査 1件

・地域からの依頼 WAIS-IV 1件

### (3) 藤井寺市障害児・障害者ふれあい支援事業

藤井寺市より委託を受けて、障がい児・障がい者、学齢期・成人期それぞれに合わせたプログラムを準備し、幅広いニーズに対応した余暇活動の支援を行いました。

#### ①新規利用登録者数 9名（成人8名・児童1名）

利用実績 開所日数 308日 利用人数 6,286人

総登録者数 156名（児童42名 成人114名）

## 支援プログラム

創作活動、音楽レクリエーション、映像鑑賞、カラオケ、体操レクリエーション、室内レクリエーション、戸外レクリエーション、ふれあいサロン等を実施しました。

### ・教室

絵手紙教室、書道教室、茶道教室、手芸教室

### ・クリスマス会の実施

今年度は新型コロナウイルスが流行していたため、感染拡大の防止対策として通常通りのクリスマス会は中止とし、三密を回避する形をとり、利用者の楽しみを担保する活動としてクリスマスイベントを開催しました。

場所：藤井寺市市民総合会館 別館305号室

参加者：児童 4名 成人 22名

## ②集団療育プログラムの実施

藤井寺市在住の発達障がいの疑いのある未就学児童とその保護者を対象に小集団の活動を通して、コミュニケーション能力の向上と保護者が児童の行動を肯定的に捉えることを目標とした集団プログラムを実施する予定でした。第1期に参加連絡はありましたが、春の緊急事態宣言が発出されていたこともあり、開催を見送ることにしました。第2期・第3期も新型コロナウイルスの感染状況や、当センター内で多くの利用者が集うこともあり、教室の開催は中止としました。

## ③職員研修の実施

### ◎内部研修（7回）

日時	内容	主催
11月19日	新型コロナウイルス感染症について	藤井寺市障害児障害者ふれあい支援センター
11月19日	防犯対策について	藤井寺市障害児障害者ふれあい支援センター
11月19日	法人研修 「成年後見制度」について	しゅらの郷福祉会
12月19日	応用行動分析の基礎知識	藤井寺市障害児障害者ふれあい支援センター
12月19日	発達検査の読み取り方	藤井寺市障害児障害者ふれあい支援センター
3月4日	認知行動療法の基礎知識	藤井寺市障害児障害者ふれあい支援センター
3月25日	応用行動分析Ⅱ	藤井寺市障害児障害者ふれあい支援センター

◎外部研修(2回)

日時	内容	主催
6月15日	医師による福祉施設向け感染予防 セミナー	一般社団法人日本福祉感染予防協会
3月5日	第11回子供発達支援研修会 ～ADHDの基本と支援方法～ (オンライン研修)	一般社団法人 子ども発達支援研究会

今年度は新型コロナウイルスの感染予防の観点から、対外的な研修の実施は難しかったですが、当センターでの研修の実施は積極的に行うことができたと思われます。

④ひやりはっと、ヒヤリツイート、事故報告書

- ・ひやりはっと 7件
- ・ヒヤリツイート 137件
- ・事故報告書 8件

今年度は“ヒヤリツイートを積極的に出す”という支援目標を設定したことで、ヒヤリツイートの数がとても増加しています。ヒヤリツイートは『ひやりはっと』までいかないような些細な出来事から危険因子を職員間で話し合い、危機回避を行う目的で実施しています。今後も危険因子の洗い出しを行うためにも、ヒヤリツイートを積極的に提出することを常に意識し、職員全体で日々強い危機意識を持ち、支援に取り組んでいきたいと思ひます。